

パルシシステム生産者・消費者協議会

第25回 通常総会

《次第》

1. 開会の辞
2. 代表幹事挨拶
3. 来賓挨拶
4. 議長選出
5. 書記任命・議事録署名人選出
6. 議案審議
 - 第1号議案 2013年度活動報告並びに決算報告・監査報告承認の件
 - 第2号議案 2014年度活動方針並びに予算案承認の件
 - 第3号議案 議案効力発生の件
7. 議長解任
8. 閉会の辞

もくじ

第1号議案	2013年度活動報告並びに 決算報告・監査報告承認の件-----	1
第2号議案	2014年度活動方針並びに 予算案承認の件-----	10
第3号議案	議案効力発生の件-----	13
【資料】	-----	14
【規約】	-----	25
【代議員名簿】	-----	30

第1号議案

2013年度活動のまとめ並びに決算・監査報告承認の件

《2013年度の振り返り》

2013年は、日本農業とそれを取巻く経済が大きく変化した年でした。安倍政権が打出した経済政策「アベノミクス」は、無制限の金融緩和から円安を導き、輸出による企業の増益から株高、消費拡大、景気回復というシナリオで、株高など一時的な効果はみられましたが、2013年の実質賃金は0.5%減となり、貿易収支は大幅な赤字に転落しました。

一方で、政府はTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）への交渉参加を表明しました。食の安全性確保や国内農林水産業などの農業分野だけではなく、くらしや地域社会全体が崩壊する可能性もあると考えています。また、これに連動するかのよう国内では農政改革論議が活発化しており、年末には米の生産調整を前提に支払われていた、直接支払交付金を次年度は半減し、5年間で生産調整を終了するとの方針が唐突に提案されるなど、「農業の競争力強化」を中心とした提案が行われています。

更には、各地で発生した自然災害が多くの地域の生活、農畜産業へ打撃を与えてきました。しかし、私たちは前を向き歩むことをやめません。

2013年度のパルシステム生産者・消費者協議会は新しい組織体制を確立させ、幾つかの試みに挑戦した1年になりました。

組織体制プロジェクトの答申を受け、生産者幹事の増員、5つの部会から生産者幹事を立てる、幹事会と生産者運営委員会の同日開催を基本にした生産者幹事の両会議への出席、生産者運営委員会における運営方法の改善などを進めてきました。女性生産者が活躍する場作りとしての交流企画も開催する事が出来ました。

農業削減プログラム改定に伴い学習を基本に生産産地の体制を整える事に重点を置きました。生産者と消費者の交流を強める事、産地の資源を活用し再生可能エネルギーの情報共有と調査活動を進め、新しい情報発信の仕組みもスタートしました。

そして、生産産地がより美味しく確かな農畜産物を作り消費者からの信頼を高める目的に品質向上の取組みに力を注ぎました。これらの取組みは成果を挙げると同時に継続する事の重要性も示しています。着実に前進する気概を示しこれからの生産者・消費者協議会という組織の行動を指し示す年になったと感じられます。

同時に、様々な活動を進める上で時間的課題と情報の伝達・共有といった今後更に整えていく必要がある要素もあります。2013年度には取組みが十分出来なかった課題は更に工夫し次年度に引続き取組みます。実践できたものは継続しその中身を更に磨き上げていく事に力を入れていきます。

《重点方針と具体的施策》

- I 食料自給向上の取組みを実践します。国内農業の必要性を広く伝える活動を重視し、必要な学習会、講演会を主催・共催で実施します。国内で農業が営まれ継続されることの重要性を様々な形で伝えていきます。
- ① TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）への参加を阻止するべく活動を行います。まだ、十分に理解が広まっていないTPPの内容を伝える学習会、宣伝活動、署名活動などを計画的に実施します。
- 各産地・地域での署名活動を基本にTPP反対への姿勢を継続してきました。
- ② 国内で生産される農産物と海外から輸入される農産物の違いが分かる学習会を開催します。生消協の産地が取組んでいる内容を紹介し、国産生産物、生消協の産地生産物の美味しさと安心・安全を伝えます。
- 「産直連続講座」を会員生協の協力を得ながら5つの部門で構成し8会員生協で31回開催し697人（2014年1月末現在）の受講者が参加しました。産直産地の取組みと国産生産物、国産原料の美味しさと実態を伝えることを継続しました。
- 昨年同様、連合会で働く職員を対象にした企画を実施し、食べることと生産者との交流を通じて産直の価値を広げることに取組みました。
- 青年農業者交流会の場では北海道農業研究センターにて畑作研究に取組む方を招き微生物と土、そして農作物の関係性を学ぶ場を作りました。
- ③ 6次産業の取組みを学び、地域や行政との連携を図り、農産物の生産性向上に繋がる活動を研究します。13年度は学ぶことを優先しつつ可能であれば実践モデルを検討します。
- 北海道、九州をはじめとした地域にて実践的に産直原料を活用した加工品開発を進行させました。2013年度では産直原料使用の開発・改善商品は50品目となります。
- ④ 飼料における自給率向上への取組みを行います。飼料米を中心に新たな飼料原料栽培の研究と海外原料に頼らない独自の流通システム研究を推進します。
- 日本型畜産大集会を新農業委員会と連携し開催しました。畜産部会が主体的にリードし飼料米を活用する産地に焦点を当てた学習会を開催しました。
- 同時に2013年秋の畜産キャンペーンへの連動を行い、「100万人の食づくり運動」と繋がり、会員生協への学習会をサポートしています。
- II 環境保全型農業を推進し持続的な農業を営める環境づくりに取組みます。
- ① 農薬削減プログラムに基づき、農薬の使用総量減に取組みます。環境負荷を低減させ、結果として生産者の健康と後継者増への取組みに繋がります。
- ② 農薬、化学肥料削減を進め、豊かな土壌作りを行います。同時に優良な堆肥の生産と使用による資源循環型農業を進め微生物を始めとし生物の多様性が可能な土壌作

りを拡大します。

- 12年度から協議してきた農薬削減プログラム改定に関し協議に参加するとともに、主体的に課題整理、行動整理を行ってきました。
- 青果フォーラムを実施し、学習と理解を広める場を多くの産地に提供し生消協全体の取組みとして進行する努力を行ってきました。



- ③ 日本型畜産の研究理解をすすめます。再生産可能な畜産技術の事例共有し拡大に繋がります。
 - 「100万人の食づくり運動」と連携した、新農業委員会との共催による大集会を実施し、生産者と消費者が学びあい約130名が集う場となりました。その中で代表的な産地の実践事例を参加者と共有するとともに、他の生協や団体の取組みを客観的に受け止めパルシステムの現状を理解する場にもしました。
- ④ 再生可能エネルギー問題に具体的に取り組めます。国内外の事例を集め、生消協内の実践モデル情報を集約共有します。
 - パルシステムが作る再生可能エネルギー連絡会に複数産地が参加し個々の産地がチャレンジしたい取組みの共有と課題の分析を行なっています。
 - 3・11以後の生産現場における自分達でエネルギーを作ることの重要性を具体的な形にすることを目的に5つの部会に所属する産地が業種を越えた連携も目指しています。
- ⑤ 放射性物質低減への取組みを継続します。取組み産地への理解と学習、交流、そして必要な支援を行います。
 - 農地土壌における放射能汚染の低減取組みを継続することで生産物への信頼性を確保するものへとしています。
 - 2013年度も32産地で、圃場における土壌検査、畜産の飼料検査を継続してきました。また、茨城の原木しいたけ栽培でも放射能への対応を継続しています。

Ⅲ 組織運営について抜本的に強化を図ります。

- ① 5つの生産部会（野菜・果樹・米・畜産・鶏卵）から幹事を立て、相互の情報共有と活動の活性化を進めます。同時に3ブロックからも幹事を立てることで同様の効果を狙います。認識と情報の共有を行い、それぞれが機能する事で全体の活性化に繋がります。



➤ 野菜部会と果樹部会は今年も連携し青果フォーラムを開催しました。農薬削減プログラムへの理解を深める場とすると共に、品質向上への取組みの重要性を共有し産地が主体的に生産物への責任を持つ意識作りを行なう場としました。更に情報発信と交流のあり方を考える場の提供も行い多くの産地が学ぶ場としました。

- 米部会では、産直ごはんの日を開催しコア・フード米をテーマにして5品種の新米を食し、生産者と交流する事でパルシステムに働く人たちへ産直を知る・体感する場作りを行ないました。ラクアス東新宿を会場としておよそ250名の人が参加しています。カンパ金として集めた金額は東北大学の震災復興支援活動の場に寄付しています。
- 畜産部会は秋に行なわれた日本型畜産の大学学習会を共催する形で行いました。2013年度のパルシステム事業の重要な畜産キャンペーンへの支援としても大きな貢献をしています。
- 鶏卵部会は連続講座を基本に学習会を継続してパルシステムの鶏卵の特徴を広める活動を行っています。
- ブロック会議は3ブロックで開催されました。東北・北海道ブロックは秋田県にて開催され126人が参加。関東・中部ブロックは長野県にて94人が集まりました。そして関西・以西ブロックでも63人が集い議案に沿って生産者同士の議論がされています。
- 2014年1月には下期合同ブロック会議を開催しブロック毎に次年度の活動を協議しました。



- ② 次代を担う生産者の育成を念頭に部会、ブロック、生産者運営委員会、幹事会が活動します。幅広い世代が交わる中で組織強化を図ります。
- 組織体制プロジェクトを経て組織構図の変更を行いました。それによりこの先の青

年部設立を想定し幹事枠を作りました。また、ブロック役員の人材育成、幹事が主体的に部会等との連携を担う課題担当制を実施し活動の活性化を試みました。

- 新しい構造の中で見えてきた新たな課題を次年度に活かす事が今後必要です。具体的にはブロック内部での連絡と情報共有、そして課題整理。各部会と担当幹事の連携をよりスムーズに行う仕組み作りなどがありますが、生産者運営委員会を基軸に協議できる場作りを工夫し増やすことで整理するよう進めます。
- ③ 諸活動を生消協内外へスピーディーに情報発信していきます。日常的に繋がりを作り、産地、生産者からの情報も吸い上げられるシステムで相互の認識の距離間を縮めます。
- フェイスブックを活用し各産地の生産者に幹事会、生産者運営委員会などを基本にした様々な企画を情報発信することを行いました。今後は双方向のコミュニケーションを進化させる仕組みを更に追及します。
- ④ 諸活動と情報の相互共有を基盤に生消協の魅力伝え、新たな加入産地を増やします。
- 新たに10の産地が加入しています。その中には複数の水産産地の加入が行なわれました。新しい部門として今後の生産者・消費者協議会の中での活動のあり方を検討する段階です。

IV 生産者・組合員・職員の交流の進化を図ります。

- ① 部会を中心に産地間の交流を推進します。農作物生産における技術交流を進め農産物の生産性及び品質向上へと繋げます。同時に生産者同士の交流を深める事で産地の連帯を強めます。
- 産地間の技術交流も行われました。生産者が他の産地に出向き具体的な農業技術を体験し学ぶ機会と人的交流が行われました。
- 生産者運営委員会の参加形態を変更する事で生産者間の情報交換と交流を強める形を整えました。今後はその先にあるブロックや部会の中に更に具体的な情報を流し活動の活性化を強めます。



- ② 組合員との交流事業のスキル研修、生協職員と組合員を受け入れる産地交流を積極的に進め、産直の良さを伝達します。
- 各ブロック会議へ消費者幹事が参加する形態を今年から変更、会員生協で行われている具体的な取組みをプレゼンテーションすることにしました。それにより各産地からは生協の実情が理解できる、より消費者を身近に

感じることができる等の声があがり、相互理解と交流の深化に繋がりました。

- 青年農業者交流会を都内と会員生協毎での交流、女性生産者交流会を愛媛県産地に

て継続して開催しました。

- パルシステム東新宿事務所にて開催した、産直ごはんの日はパルシステムで働く250名の人たちに産直の魅力と価値、そして生産者との新しい交流のスタイルを提案する結果となりました。



V 農産物への信頼を更に高めるために品質向上への取組みを行います。

- ① 産地自主点検を持続すると同時に、取組みを広める努力をします。
- ② 農産物の美味しさを重視します。産地間の技術的交流を行い、より美味しい農産物を生産できる研究を進めます。
- ③ 農産物の品質を確保することを目的に、出荷に対する考え方、流通に関する知識などを学習します。同時に必要に応じ物流システムの理解を進めます。
- ④ 品質向上の取組みの一つとして、安定的な生産を心がけ農産物の欠品率を低下させる取組みを協議する場を持ちます。



- ジーピーエスと生産者の役員が協議の場を持ちました。課題を出し合い今後につなげる形としました。
- 美味しく確かな品質を持つパルシステムの産直産地の取組みを今まで以上に強め利用向上につなげる実践的な内容としています。

以上

2013年度 パルシステム生産者・消費者協議会 決算書

貸借対照表
2013年12月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債及び剰余金の部	
普通預金	10,941,539	未払金	2,289,828
未収金	0	預り金	34,112
立替金	0	仮受金	0
		流動負債合計	2,323,940
流動資産合計	10,941,539	負債合計	2,323,940
		前期繰越金	6,466,107
		当期剰余金	2,151,492
		剰余金合計	8,617,599
資産合計	10,941,539	負債・剰余金合計	10,941,539

損益計算書

自2013年1月1日至2013年12月31日

(単位:円)

会費収入		19,579,160
収入計		19,579,160
委託費	3,600,000	
通信費	1,821,280	
旅費交通費	133,435	
幹事会費	3,012,521	
生産者運営委員	1,373,340	
消費者運営委員	2,372,166	
ブロック会議費	1,644,728	
部会活動補助費	499,741	
調査研究費	59,020	
会議費	1,956,054	
ホームページ運営費	0	
SNS開発費	0	
事務所負担費	378,000	
会計委託費	189,000	
渉外費	55,573	
顧問費	334,112	
国際交流費	0	
消耗品費	5,380	
雑費	105,525	
支出計	17,539,875	
事業剰余金		2,039,285
雑収入	112,207	112,207
当期剰余金		2,151,492
前期繰越金		6,466,107
当次繰越金		8,617,599

2013年度 パルシステム生産者・消費者協議会 予算比較表

自 2013 年 1 月 1 日 至 2013 年 12 月 31 日

(単位:円)

勘定科目	当期予算額	当期実績額	予算増減額	予算対比	備考	
収入	会費収入(生産者)	10,000,000	10,379,160	379,160	103.8%	生産者 パルシステムグループ
	会費収入(パルグループ)	9,200,000	9,200,000	0	100.0%	
	合計	19,200,000	19,579,160	379,160	102.0%	
支出	委託費	3,600,000	3,600,000	0	100.0%	事務局人件費
	通信費	1,800,000	1,821,280	21,280	101.2%	カタログ発送費=1,700,000 その他通信費=100,000
	(カタログ発送費)	1,700,000	1,733,409	33,409	102.0%	
	(その他通信費)	100,000	87,871	△ 12,129	87.9%	
	旅費交通費	300,000	133,435	△ 166,565	44.5%	事務局旅費交通費
	幹事会費	3,000,000	3,012,521	12,521	100.4%	交通費=2,000,000(会議開催回数増) 活動補助費=600,000 公開確認会派遣費=300,000 事務局会議費100,000
	(交通費)	2,000,000	2,562,040	562,040	128.1%	
	(活動補助費)	600,000	255,562	△ 344,438	42.6%	
	(公開確認会派遣)	300,000	194,919	△ 105,081	65.0%	
	(事務局会議費)	100,000	0	△ 100,000	0.0%	
	生産者運営委員会費	1,400,000	1,373,340	△ 26,660	98.1%	交通費=1200,000(6回) 活動補助費=200,000
	(交通費)	1,200,000	1,295,140	95,140	107.9%	
	(活動補助費)	200,000	78,200	△ 121,800	39.1%	
	消費者運営委員会	2,700,000	2,372,166	△ 327,834	87.9%	青年農業者交流会=700,000 女性生産者交流会=700,000 消費者幹事交通費=1,200,000 その他活動費等=100,000
	(青年農業者交流会)	700,000	461,802	△ 238,198	66.0%	
	(女性生産者交流会)	700,000	579,949	△ 120,051	82.8%	
	(消費者幹事交通費)	1,200,000	1,298,019	98,019	108.2%	
	(活動補助費)	100,000	32,396	△ 67,604	32.4%	
	ブロック会議費	2,300,000	1,644,728	△ 655,272	71.5%	関東・中部=1,000,000 東北・北海道=700,000 関西・以西=600,000
	(関東・中部)	1,000,000	718,343	△ 281,657	71.8%	
	(東北・北海道)	700,000	381,870	△ 318,130	54.6%	
	(関西・以西)	600,000	544,515	△ 55,485	90.8%	
	部会活動補助費	1,600,000	499,741	△ 1,100,259	31.2%	部会活動補助総額=1,000,000 産直講座交通費=600,000
	(部会活動補助)	1,000,000	147,267	△ 852,733	14.7%	
	(産直講座交通費)	600,000	352,474	△ 247,526	58.7%	
	調査研究費	500,000	59,020	△ 440,980	11.8%	再生可能エネルギー、品質向上対策、組織スキル研修など。
	会議費	2,000,000	1,956,054	△ 43,946	97.8%	総会費用=1,500,000 農法研究会=500,000
	(総会費用)	1,500,000	1,527,817	27,817	101.9%	
	(農法研究会)	500,000	428,237	△ 71,763	85.6%	
	ホームページ運営費	150,000	0	△ 150,000	0.0%	更新費用=150,000
SNS 開発	100,000	0	△ 100,000	0.0%	フェイスブック、ブログなどの情報の相互共有化を強化	
事務所負担費	378,000	378,000	0	100.0%	半期毎の支払い	
会計委託費	189,000	189,000	0	100.0%	半期毎の支払い	
渉外費	1,000,000	55,573	△ 944,427	5.6%	慶弔関係費、自然災害等の見舞金対応予算 ※1	
顧問費	333,333	334,112	779	100.2%	1名以内	
消耗品費	100,000	5,380	△ 94,620	5.4%	封筒作成、文具等	
雑費	200,000	105,525	△ 94,475	52.8%	支払手数料、賛助金、団体会費等	
合計	21,550,333	17,539,875	△ 4,010,458	81.4%		
事業剰余金	△ 2,350,333	2,039,285	4,389,618	-86.8%		
雑収入	0	112,207	112,207			
剰余金	△ 2,350,333	2,151,492	4,501,825	-91.5%		
前期繰越金	6,466,107	6,466,107	0	100.0%		
次期繰越金	4,115,774	8,617,599	4,501,825	209.4%		

※1 自然災害等の見舞金対応予算については、該当の災害等が無かった場合は、次期繰越金とします。

※2 翌年の会費が入る前、1～3月の3ヶ月間は、つなぎ資金が必要となります。

監査報告書

2014年2月3日

バルシステム生産者・消費者協議会

監事 峯本 正志

監事 石黒 登代子



次のように2013年度、監査を行いましたので下記にご報告申し上げます。

記

1. 監査日時 2014年2月3日(月) 15:00~17:00
2. 監査の場所 バルシステム連合会 2F 応接室
3. 監査立会人 バルシステム連合会経理部 神藤 賢一
生消協 代表幹事 香取政典 副代表幹事 高野祐子
生消協事務局 小林秀樹 石渡智子
4. 監査方法
貸借対照表、損益計算書、総勘定元帳、補助簿等の提出を求め、監査を行いました。
5. 監査意見
会計収支は適正に処理されていることを認めます。
6. 附帯意見
・経費支払い基準について精査ください。

以上

第2号議案

2014年度活動方針並びに予算案承認の件

《2014年度 方針案》

- I 生産者と消費者の繋がりを更に深め産直の原点を学びなおします。日本農業の発展へ貢献する取組みを行います。
- ① 食料自給力向上の取組みを実践します。「産直」を旗印に国内農業の必要性が伝わる形で活動を展開し学習会、講演会を実施します。
 - ② TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）反対を貫きます。TPPの内容を伝える学習会、宣伝活動を計画的に実施します。
 - ③ 産直で生産される農畜産物の価値とその背景を理解できる学習を進めます。地域や里山、農村環境、生物多様性、そして生産者、消費者、流通などそれぞれの視点が共有出来る内容とします。
 - ④ 飼料における自給力向上の取組みを行います。生消協の米産地と畜産産地が連携できる仕組み作りを考えます。飼料米を中心に流通システム研究を推進します。
 - ⑤ 6次産業化の取組みを学びながら、産直原料を使用した商品開発へ協力します。
- II 環境保全型農業を推進し産直の取組みが内外に伝わる形を作ります。
- ① 農薬削減プログラム改定に伴い、農薬の総量削減に取組み、環境負荷を低減させる取組みを実践します。その技術を会員産地全体で共有し、産地全体の活動を向上させます。同時に消費者とも意義と価値を共有します。
 - ② 産直の基本と考える土作りに取組み、より美味しい作物を作ります。その為に調査・研究活動を行います。
 - ③ 日本型畜産の研究理解をすすめます。資源循環型となる畜産技術を事例共有し拡大に繋げます。
 - ④ 再生可能エネルギー推進に取組みます。パルシステムが進める再生可能エネルギー連絡会と協力し産地の実践モデル情報を共有しながら理解を深めます。
 - ⑤ 放射能低減への取組みを継続します。取組み産地での、交流と学習会を支援します。
 - ⑥ 有機農業の実践事例を学び、有機農産物の消費拡大に繋がる取組みを推進します。農畜産物を中心としたコア・フード商品の価値と魅力を生産者と消費者が協力し広く伝える活動を行います。

Ⅲ 生産者・組合員・職員の交流の深化を具体的に進めます。

- ① 産地間の人的交流を推進します。ブロック会議、女性生産者交流会、青年農業者交流会など、消費者や会員生協で働く人たちの企画参加を強めます。
- ② 産直と生消協の価値を共有し合える取組みを開催します。

Ⅳ 農畜産物への信頼を更に高めるために品質向上への取組みを行います。

- ① 品質向上を継続的に進めます。課題について協議する場を作ります。
- ② 農畜作物生産における技術交流を行ない消費向上へ繋がめます。
- ③ 産地自主点検取組みを呼びかけ、組織レベル向上を目指します。

Ⅴ 組織について機能的、実践的な運営の取組を強めます。

- ① 機能的かつ効率的な運営を行います。その為に年度の活動が開始される前の準備を整えます。
- ② 生産者運営委員会と消費者運営委員会の年間活動計画を作り行動します。
- ③ 次世代生産者の活動を支援します。
- ④ 年間に行われる多くの活動を生消協内へ情報伝達していきます。日常的に繋がりを作り、産地、生産者からの情報も集中できる仕組みを様々な角度から追及します。
- ⑤ 活動と情報共有を基盤に生消協の魅力を伝え、新たな加入産地を増やします。

以上

《2014年度予算案》

期間:2014年1月1日～2014年12月31日
(単位:円)

パルシステム生産者・消費者協議会

勘定科目		2014年度予算	構成比	備考
収入	会費収入(生産者)	10,000,000	52.1%	
	会費収入(パルグループ)	9,200,000	47.9%	
	合計	19,200,000	100.0%	
支出	委託費	3,600,000	15.7%	事務局人件費
	通信費	1,800,000	7.8%	カタログ発送費=1,700,000円 その他通信費=100,000
	旅費交通費	200,000	0.9%	事務局旅費交通費
	幹事会費	3,500,000	15.2%	交通費=2,400,000(定例開催+臨時会議) 活動補助費=600,000 公開確認会派遣費=400,000 事務局会議費100,000
	生産者運営委員会費	1,400,000	6.1%	交通費=1200,000(5回+α) 活動補助費=200,000
	消費者運営委員会	2,700,000	11.8%	青年農業者交流会=700,000 女性生産者交流会=700,000 消費者幹事交通費=1,200,000 その他活動費等=100,000
	ブロック会議費	2,300,000	10.0%	関東・中部=1,000,000 東北・北海道=700,000 関西・以西=600,000
	部会活動補助費	2,000,000	8.7%	部会活動補助総額=1,400,000 産直講座交通費=600,000
	調査研究費	300,000	1.3%	再生可能エネルギー、品質向上対策、組織スキル研修など。
	会議費	2,500,000	10.9%	総会費用=2,000,000 農法研究会=500,000
	ホームページ運営費	500,000	2.2%	更新費用=150,000 + メンテナンス
	SNS開発	100,000	0.4%	フェイスブックなどの情報の相互共有化を強化
	事務所負担費	378,000	1.6%	半期毎の支払い
	会計委託費	189,000	0.8%	半期毎の支払い
	渉外費	1,000,000	4.4%	慶弔関係費、自然災害等の見舞金対応予算 ※1
	アドバイザー経費	300,000	1.3%	会議、企画に応じ必要な方を依頼
	消耗品費	100,000	0.4%	封筒作成、文具等
	雑費	100,000	0.4%	支払手数料、賛助金、団体会費等
	合計	22,967,000		
	剰余金	△ 3,767,000		
前期繰越金	8,617,599			
次期繰越金	4,850,599		※2	

※1 自然災害等の見舞金対応予算については、該当の災害等が無かった場合は、次期繰越金とします。

※2 翌年の会費が入る前、1～3月の3ヶ月間は、つなぎ資金が必要となります。

第3号議案

議案議決効力発生の特

以上、本日ご承認いただいた議案は、本総会終了時点よりその効力が発生するものとします。なお、本旨に反しない範囲での字句修正は幹事会にご一任をお願いします。

—資料—

- 2013年度 生消協の主な活動日誌
- 幹事会活動状況
- ブロック活動状況
- 生産者運営委員会活動状況
- 消費者運営委員会活動状況
- 「産直連続講座」活動状況
- 生消協組織規約・運営規程
- 代議員名簿

《2013年度 生消協 活動日誌 2013年3月～2014年2月》

月	開催日及び会議、企画名	備考
3月	7日 第24回通常総会・フォーラム 8日 県別交流会	
4月	1日 第1回消費者運営委員会 19日 第1回幹事会 19日 第1回生産者運営委員会	
5月	7日 第2回消費者運営委員会 23日～24日 関東・中部ブロック会議 29日 JAみどりの公開確認会	長野県 佐久市 34団体 94名参加 監査人：戸澤藤彦
6月	3日 第3回消費者運営委員会 24日 パルシステム連合会総会	
7月	1日 第4回消費者運営委員会 2日 協力会総会 11日～12日 東北・北海道ブロック会議 12日 米部会技術交流 20日～21日 第2回幹事会・幹事合宿 20日 第2回生産者運営委員会	香取代表 大津幹事、加瀬幹事対応 秋田県横手市 22団体 126名参加 秋田県横手市 : JA秋田ふるさと受け入れ
8月	8日～9日 米沢郷牧場公開確認会 20日水産産地交流会	監査人：豊下勝彦
9月	2日 第5回消費者運営委員会 7日～8日 関西以西ブロック会議 26日 上期会計監査	大阪府羽曳野市 14団体 63名参加
10月	7日 第6回消費者運営委員会 10日～11日 までっこチキン公開確認会 18日 第3回幹事会 18日 第3回生産者運営委員会 23日 産直ごはんの日開催 24日 青果フォーラム開催	監査人：彦坂誠
11月	4日 第7回消費者運営委員会 7日～8日 青年農業者交流会 9日～10日 第12回女性生産者交流会 22日 白州森と水の里センター公開確認会	27団体 78名参加 愛媛県西予市 無茶々園 21団体 91名参加 監査人：小川 保
12月	2日 第8回消費者運営委員会 13日 第4回幹事会 13日 第4回生産者運営委員会	

<p>1月</p>	<p>6日 第9回消費者運営委員会 15日 第21回農法研究会 16日 下半期合同ブロック会議 16日 第5回生産者運営委員会</p>	<p>パルシステム連合会東新宿事務所</p>
<p>2月</p>	<p>3日 第10回消費者運営委員会 3日 会計監査 5日 第4回幹事会 5日 第4回生産者運営会 6日 西武酪農乳業公開確認会 13日～14日 大紀コープファーム公開確認会 20日 村悟空公開確認会</p>	<p>香取代表 峯本監事 石黒監事 監査人：和田宗隆 監査人：大津清次 監査人：矢内克志</p>

【幹事会】

日時	開催場所	議 題
4月19日	東新宿事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第24回通常総会・県別交流会報告並びに第25回通常総会概要の件 ・ 幹事役割分担の件 ・ 会員生協会費金額確定の件 ・ 2013年度主要会議並びに行事日程確定の件 ・ 部会活動予算確定の件 ・ 新農業委員会生消協幹事派遣要請の件 ・ 公開確認会幹事派遣の件 ・ 農法研究会会場の件 ・ 農薬削減プログラム協議経過報告 ・ 新規産地加入の件 ・ 品質向上に関わる取り組みについて
7月20日	東新宿事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者幹事承認の件 ・ 2013年度生産者団体会費請求の件 ・ 交流におけるルール ・ 賛助会員について ・ 顧問契約の件
10月18日	東新宿事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第21回農法研究会テーマの件 ・ 第25回通常総会形式とフォーラム内容の件 ・ 2013年度振り返りと2014年度生消協活動方針（草案）の件
12月13日	東新宿事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農法研究会について ・ 第25回通常総会・フォーラムについて ・ 第26回通常総会会場の件 ・ 2013年度総括（案）、2014年度生消協活動方針（案）の件 ・ 2013年度予算進捗状況および2014年度予算案について
2月5日	コズミックセンター 大会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2013年度総括（案）、2014年度生消協活動方針（案）確定の件 ・ 2013年度予算進捗状況および2014年度予算案確定について ・ 通常総会役割分担について

【監事会】

9月26日	東新宿事務所 2階会議室	2012年1月1日～6月30日までの 半期決算監査
2014年 2月3日	東新宿事務所 2階会議室	2012年1月1日～12月31日までの 年間決算監査

【上期ブロック会議】

日時	ブロック	開催場所	概要
5月 23～24日	関東・ 中部	長野県 佐久市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 34団体94名参加。受入産地：トップリバー ・ 消費者幹事より会員生協活動報告 ・ 長野県受け入れ産地からのプレゼンテーション ・ 農薬削減プログラム改定と経過報告 ・ 部会ごとによるディスカッション
7月 11～12日	東北・ 北海道	秋田県 横手市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 22団体126名参加 受け入れ産地：JA秋田ふるさと ・ 消費者幹事より会員生協活動報告 ・ 受け入れ2産地よりプレゼンテーション ・ 青果、米の圃場視察
9月 7～8日	関西・ 以西	奈良県 五条市 リバーサイドホテル 大阪府羽曳野市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 14団体63名参加 受け入れ産地：なかむら農園 ・ 消費者幹事より会員生協活動報告 ・ 受け入れ産地よりプレゼンテーション ・ ディスカッション ・ ぶどうの圃場視察

【下期ブロック会議】

2013年 1月16日	ブロック 合同	東新宿事務所 2階会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 70産地130名参加 ・ 2013年度の活動のまとめ ・ 2014年度方針論議
----------------	------------	-----------------	---

【生産者運営委員会】

日時	開催場所	概要
4月19日	東新宿 事務所	生産者運営委員長選出 生産者運営委員長に大津幹事が選出された。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 上半期ブロック会議の開催について ・ 生産者部会、部会長の確認と活動予定・進め方 ・ 農薬削減プログラム進捗状況の件 ・ 農法研究会、合同ブロック会議、第25回総会について ・ 青年農業者交流会の件 ・ 副部会長の件 ・ ブロック会議の件 ・ その他 (Facebook について)
7月19日	東新宿 事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農法研究会のテーマについて ・ 青年農業者交流会の件 ・ 女性生産者交流会の件 <p>《各部会報告》 それぞれ部会ごとに別れ協議を行った。</p>
10月18日	ジーピーエス 大会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農法研究会のテーマについて ・ 青年農業者交流会の件 ・ 女性生産者交流会の件 ・ 生消協生産者とジーピーエス意見交換会
12月13日	東新宿 事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農法研究会のテーマについて ・ 2013年度総括、2014年度方針について ・ 下期合同ブロック会議について
2014年 1月16日	東新宿 事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ (株)ジーピーエス主催「お取引先様説明会」の概要について報告。 ・ 2月の生産者運営委員会の開催に関して ・ 部会ごとによる協議
2月5日	コズミック センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産者部会ごとによる報告 ・ 青果フォーラムについて ・ 女性生産者交流会、青年農業者交流会について

【消費者運営委員会】

月 日	開催場所	議 題
4月	東新宿 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第10回消費者運営委員会報告 ・ 総会・県別交流会報告 ・ 年間スケジュール確認（消費者運営委員会開催日、各ブロック会議、公開確認会割り振り、女性生産者交流会等） ・ 産直連続講座について ・ 女性生産者交流会の件について ・ 会員生協会費請求について
5月	東新宿 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生消協関連会議報告 ・ 公開確認会・ブロック会議担当割り振りについて ・ 2013年度女性生産者交流会について ・ 2013年度青年農業者交流会について ・ 交流におけるルールづくりについて
6月	東新宿 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生消協関連会議報告 ・ 副代表の選出について ・ 生消協各行事等について
7月	東新宿 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産者・消費者協議会とは？「オリエンテーション」 ・ 副代表の選出について パルシステム福島 高野理事が副代表幹事として選出された。 ・ 公開確認会、東北北海道ブロック会議、女性生産者交流会担当について
8月		お休み
9月	東新宿 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生消協関連報告 ・ 公開確認会報告 ・ 生消協関連イベント <ul style="list-style-type: none"> ○ 青年農業者交流会について ○ 女性生産者交流会について ○ 産直ごはんの日について ○ 青果フォーラムについて
10月	東新宿 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生消協関連報告 ・ 生消協関連イベント <ul style="list-style-type: none"> ○ 青年農業者交流会について ○ 女性生産者交流会について ○ 産直ごはんの日について（確認） ○ 青果フォーラムについて（確認） ○ 県別交流会について（報告）、交流におけるルールについて（確認）
11月	東新宿 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生消協関連報告 ・ 生消協関連イベント <ul style="list-style-type: none"> ○ 青年農業者交流会について ○ 女性生産者交流会について ○ 産直ごはんの日について（報告） ○ 青果フォーラムについて（報告） ○ 県別交流会について（報告） ○ 農法研究会、総会、フォーラム等について

12月	東新宿 会議室	<ul style="list-style-type: none">・ 生消協関連会議報告・ 農法研究会役割分担について・ 県別交流会について・ 2013年度総括、および2014年度方針について
2014年 1月6日	東新宿 会議室	<ul style="list-style-type: none">・ 生消協関連会議報告・ 農法研究会について・ 通常総会、県別交流会について・ 2013年度総括、および2014年度方針について
2月3日	東新宿 会議室	<ul style="list-style-type: none">・ 生消協関連会議報告・ 通常総会、県別交流会について・ 2013年度総括、および2014年度方針について・ 女性生産者交流会、青年農業者交流会について・ ブロック会議参加について

2013年度・産直連続講座開催一覧

	開催月日	会員生協	開催産地名	講義内容	参加人数
1	4/26	パルシステム埼玉	庄内協同ファーム	庄内協同ファームより小野寺代表を招いて学習会を開催しました。つや姫を中心に庄内のお米について学びました。	17
2	5/31	パルシステム群馬	JA やさと	JA やさとの産直たまごと市販品の食べ比べと学習会の実施。	14
3	6/7	パルシステム東京	JA ささかみ	講座名：“ささかみ”のお米がおいしい理由「知ろう！話そう！食べよう！ささかみのお米」	13
4	7/17	パルシステム神奈川ゆめコープ	ゼスプリ	ニュージーランドキウイの有機栽培の取り組み、現地の状況と品質管理及び流通管理について	39
5	7/26	パルシステム埼玉	JA ふくおか八女	JA ふくおか八女のお茶部会生産者を招き学習会を行いました。お茶の入れ方講座の他、JA ふくおか八女の産物について学びました。	16
6	8/8	パルシステム埼玉	有限会社タカハシ養鶏場	タカハシ養鶏場の取り組みについて親子企画として学習しました。昼食は親子料理教室でたまごの食べ方提案も行いました。	9
7	8/22	パルシステム神奈川ゆめコープ	米沢郷牧場グループ	パルシステムの日本型畜産、米沢郷牧場グループの資源循環型農業の取り組みについて	41
8	8/30	パルシステム茨城	ゼスプリ	「食卓にキウイが届くまで」と題しゼスプリキウイフルーツの栽培特徴や食卓に届くまでの物流管理について説明していただきました。	24
9	9/13	パルシステム山梨富士五湖センター	ネグロス・バランゴンバナナ	学習会、バナナ比べ、バナナ料理等	30
10	9/17	パルシステム東京	神奈川中央養鶏農業協同組合	講座名：比べてみよう！パルシステムの「産直たまご」	14
11	9/18	パルシステム福島	JA やさと	産直たまごについて	27
12	9/24	パルシステム茨城	JA やさと	「なにがなくてもコレさえあれば・・・」と題し、JA やさとの産直たまご、コア・	25

				フード平飼いたまご、産直こめたまごの特徴・飼料について説明していただきました。 たまごかけご飯の試食。	
13	10/1	パルシステム埼玉	ポークランド	豊下代表を招き学習会を行いました。当日はスカイプでポークランドグループとつなぎ埼玉から現地の様子を確認することができました。	22
14	10/24	パルシステム千葉	沃土会	沃土会の取組みと産地野菜を使った料理教室	22
15	10/29	パルシステム群馬	ジョイファーム小田原	タイトル；みたい！知りたい！みかんのパワー みかんの食べ方・選び方・農薬散布の現状についての学習会。	14
16	10/30	パルシステム千葉	奥中山乳業	奥中山乳業概要と牛乳学集会和牛乳を使った料理教室	26
17	10/30	パルシステム山梨 甲府センター	米沢郷牧場	鶏の解体ショー、チキンランチ等	40
18	11/ 5	パルシステム茨城	有機栽培 あゆみの会	「簡単！手作り！ベジタブルクッキング」と題し、産地の取り組み紹介していただき、後半には産地の野菜を使った料理講習会を開催。	23
19	11/12	パルシステム神奈 川ゆめコープ	神奈川中央養 鶏農協	親鶏の飼育方法、卵の品質管理について。卵の簡単料理交流会	10
20	11/14	パルシステム東京	ポークランド グループ	講座名：パルシステムの「日本型畜産」って何だろう？	14
21	11/15	パルシステム福島	ポークランド グループ	豚肉について	12
22	11/20	パルシステム茨城	オーリア 2 1	「んめ～ごはんをたべっぺ！」と題し、八郎瀉の開拓の歴史について、オーリア 21 の取り組みについて説明していただきました。 お米のおいしい炊き方講習会和郷土料理「だまこ汁」作りの実演と試食。	36
23	11/22	パルシステム埼玉	水俣不知火ネ ットワーク	産地の取り組み及び水俣病の現状について学習しました。	11

24	11/26	パルシステム東京	無茶々園	講座名：ギフトでお馴染み！無茶々園の生産者と話そう！学ぼう！パルシステムのみかんの美味しさの秘密	10
25	11/26	パルシステム群馬	ノーザンビーフ	タイトル；北海道産直牛がおいしい理由 牛の飼育状況などを学習し、調理実習を含めた学習会を実施。	20
26	11/28	パルシステム千葉	庄内協同ファーム	お米の学習と年末販促を目的としたお餅料理	25
27	12/3	パルシステム山梨 いちのみやセンター	無茶々園	学習、交流、みかん料理等	40
28	12/4	パルシステム茨城	北浦しゃも	「北浦しゃもってどんな肉？どんな味？」と題し、北浦しゃもの飼育特徴、近隣農家との連携について説明していただきました。しゃも鍋の試食。	25
29	12/12	パルシステム群馬	茨城産直センター	タイトル；初めてのキムチ作り 産地の白菜を使って、キムチ作りと白菜の学習会を実施。	19
30	1/14	福島	佐原農産物供給センター	農め〜くくらぶと野菜の料理教室	28
31	1/24	パルシステム千葉	無茶々園	①無茶々園の取組み紹介と柑橘を使った料理教室 ②前日に理事役職員向け学集会開催	31
32	2/6	パルシステム神奈川 川ゆめコープ	佐原農産物供給センター	農め〜くくらぶ料理教室、野菜BOXの利用促進	開催 予定
33	2/20	パルシステム千葉	米沢郷牧場	米沢郷取組み紹介と部位ごとの食べ比べと料理教室	開催 予定
34	2/21	パルシステム神奈川 川ゆめコープ	JAみどりの	郷土料理教室、産地交流、産直米の利用促進	開催 予定
35	3/20	パルシステム東京	佐原農産物供給センター	講座名：農め〜くくらぶがやって来る！ 佐原農産物供給センターの生産者と話そう！学ぼう！	開催 予定
36	3/25	パルシステム群馬	JAみどりの	生産者から環境保全型農業の話、コアフード米 おにぎりの試食。	開催 予定

パルシステム生産者・消費者協議会

組 織 規 約

1990年設立総会 制定

2001年第12回総会 一部改訂

2006年第17回総会にて補強

2007年第18回総会 一部改訂

2011年第22回総会 一部改訂

2013年第24回総会 一部改定

この規約は、2013年3月7日より施行する

(名称)

第1条 この会は「パルシステム生産者・消費者協議会」と称する。

(目的)

第2条 この会は、パルシステム連合会とそれを構成する会員ならびに産直活動を進める生産者が、農業や食の問題を共通の課題とし、それぞれが生活者として相互連携し、それぞれに生きる「地域」を安全且つ豊かな「暮らしの場」とすることを目指し活動することを目的とする。

(構成)

第3条 この会は、パルシステムと産直活動を進めている生産団体・個人ならびに会員生協、連合会、(株)ジープーエス、(株)パルミートをもって構成する。

(役員)

第4条 この会は、その運営および監査のため、幹事および監事若干名をおく。

【幹事】

幹事は生産者と消費者双方から、同人数を基本とする。その選任は、生産者は各ブロック、消費者は会員生協及びパルシステムの推薦によるものとし、総会で選任するものとする。但し、消費者幹事は会員生協の都合により幹事会の承認を得て交代できることとする。任期は2年とし、再選を妨げない。なお、役員の数については年度ごとに幹事会で決める。

【監事】

監事は毎運営年度2度以上、会の財産および幹事の運営執行状況を監査しなければならない。監事については生産者1名・消費者1名とする。

(会費)

第5条 会費は、原則として事業高や構成員の数で決定し、個人・団体の特別会費の納入を妨げない。また、その額は別途定める。

2 会員に特別の事情がある場合は、幹事会の承認を得て、会費納入を免除することができる。

(運営)

第6条 運営については、別途「運営規程」に定める。

2 運営年度は、2月1日より翌年1月末日までとし、毎年一回以上総会を開く。

(所在地及び事務局)

第7条 所在地及び事務局は、東京都内におく。

(改廃)

第8条 この規約の変更は、総会の決議によらなければならない。

運 営 規 程

(総則)

第1条

パルシステム生産者・消費協議会（以下、生消協）の運営規程は、加入者の意志と参加を前提として別紙の機構図にあるように会員相互の円滑な意志疎通と目的達成のために民主的な運営を保証するものである。

(総会)

第2条

生消協会員は、平等の権利を有し1会員1名の議決権は総会において保証され、総会は原則として年一回開催されるものとする。

(幹事会)

第3条

この会は次の内容で開催する。

1. 幹事会は会規約により選任された幹事で組織する。
2. 幹事会は生産者から代表幹事1名、消費者から副代表幹事1名を選任する。なお必要に応じて生産者から代表代行幹事1名を置くことができる。
3. 幹事会は代表幹事が召集する。
4. 幹事会は総会で決議した方針に基づき、日常の運営にあたる。
5. 原則として年4回の幹事会を開催する。別途必要に応じて臨時幹事会を開催することができる。

(監事会)

第4条

1. 監事は、監査について相互の連絡、協議、意見統制及び決定のために監事会を置く。
2. 監事は、代表監事1名を監事会において互選する。

(生産者運営委員会)

第5条

■生産者運営委員会

1. 生産者幹事、ブロック役員、各部会長をもって組織する。
2. この会には委員長1名をおく。
3. 会の招集は委員長が行い、年3回以上の会議を開催するものとする。
4. 会の目的は生産者のネットワーク組織のまとめ役とし、生産者の自立的課題の整理をする。

■地域ブロック

1. ブロックは、東北・北海道ブロック、関東・中部ブロック、関西・以西ブロックとする。
2. 各ブロックはブロック長・副ブロック長を選任する。但し兼任はできない。
3. 各ブロックは、年数回のブロック会議開催と、生産者同士の地域的つながりの強化と

連帯を図る。また個々の生産者同志の意見交流、情報交換を行い生産向上に生かすものとする。

■専門部会

1. 米、野菜、果樹、畜産、鶏卵の5つを専門部会とする。
2. 各部会は互選により部会長1名を選任する。兼任はしない。必要に応じて副部会長をおくことができる。
3. 各部会ごとに年1～2回の部会を開催し、各品目ごとの課題解決に向けて学習、検討、実験などを行う。

■その他

必要に応じて幹事会の基に特別プロジェクト又は委員会を設置することが出来る。

(消費者運営委員会)

第6条

1. 消費者幹事をもって組織する。
2. この会は、組合員や会員生協の要望、意見他を生消協議会全体に反映させるためのまとめ役を行う。
3. 部会は必要に応じて開催するものとする。

(事務局)

第7条

1. 生消協の運営を円滑に進めるために事務局を置く。各種企画は、その都度実行委員会を組織してこれにあたる事ができる。
2. 代表の下に事務局会議を設置する。
3. 事務局会議メンバーは、代表幹事が指名し、会の円滑運営を目的として開催する。

パルシステム生産者・消費者協議会

会費基準及び旅費・慶弔規程

(会費基準)

第1条

①生産者団体

1. 生産者会費は最低会費を1万円としパルシステム連合会との前年度の年間取引高に基づき算定する。
2. 生産者会費基準はパルシステム仕入れ金額とする。但しわかりにくい場合は産地と相談する。

②消費者団体

1. 当該年度の総会で決定した予算に沿って、算定方法の基準により生・消協幹事会で確定する。
2. 会員生協の会費の確定方法は、原則として以下とする。
 - (ア) 消費者側（会員生協・連合会・子会社）は、当該年度の生・消協予算の概ね半分を目安に、会費として拠出する。
 - (イ) 会員生協総額、連合会、子会社の拠出額については幹事会で決める。
 - (ウ) 会員生協会費は、パルシステム（無店舗事業に限定）の当該年度の3月末登録組合員の数値（Webサーバーから抽出）を用い、その数値に応じて会員生協ごとに按分して負担する。

(会費払込)

第2条

1. 生産者側団体の会費の払い込みは、当該年度の7月末までに各団体へ請求書を発行し、9月末日までに行うものとする。
2. 消費者側団体の会費の払い込みは、当該年度の4月15日までに各団体へ請求書を発行し、4月末日までに行うものとする。
3. 賛助会員の会費額は別途相談する。
4. 取引高比例会費基準は以下とする。

基準	会費額	基準	会費額
10億円超	250,000円	5千万円超	50,000円
5億円超	200,000円	3千万円超	30,000円
3億円超	150,000円	1千万円超	20,000円
1億円超	100,000円	1千万円以下	10,000円
7千万円超	70,000円		

(役員・事務局旅費支給規程)

第3条

1. 生消協幹事会・生産者運営委員会・消費者部会・事務局又は会として認められるその他会合への出席のための旅費の支給は本規定による。
2. 交通費はその都度申告しあらかじめ指定された口座に振り込む。
3. この規定の変更は幹事会の議決により行う。

(慶弔規程)

第4条

1. 生消協の関連団体の慶弔に関する事項は、この慶弔規定による。金額などの裁定は代表が決定する。
2. その他生消協関連団体の慶弔については、原則として生消協が会員を代表して行うものとする。
3. この規定の変更は幹事会の議決により行う。

(事務局)

第5条

1. 事務局の選任は幹事会が行う。
2. 雇用は連合会が行う。
3. その他必要事項については幹事会が裁定する。

第25回 通常総会代議員名簿

No.	団体名	名前	No.	団体名	名前
1	あいづグリーンネットワーク	鈴木 新	81	JAちばみどり海上野菜組合産直部	石毛 等
2	JA金津いいで	赤城 康浩	82	有限会社 ちば緑耕舎	大野 久男
3	青木農園	青木 賢一	83	株式会社 長有研	馬場 亮輔
4	JA秋田ふるさと	佐々木 正博	84	JA津軽みらい	阿保 直延
5	(農)旭愛農生産組合	加藤 豊	85	JAつくば市谷田部産直部会	飯泉 孝司
6	あじたま販売株式会社	井村 茂雄	86	有限会社 寺島農場	寺島 敏
7	(有)アップルファームさみず	山下 崇	87	天童実業同志会	片桐 完一
8	有機栽培あゆみの会	丸山 剛	88	東光寺生協協働協力会	樋川 武芳
9	有富さの園	石澤 正喜	89	常盤村養鶏業協同組合	古川 治
10	JAアルプス	谷川 剛	90	(有)栃木元気会	青柳 宏幸
11	イシハラフーズ株式会社	吉川 幸一	91	とちの実会	戸村 弘一
12	(有)伊豆鶏業	佐藤 俊夫	92	有限会社 トップリバー	飯島毅士
13	茨城産直センター	坂入 一己	93	利根川生産者グループ	関口 悠一
14	JAIわて花巻	菊池 健	94	(農)ながさき南部生産組合	近藤 一海
15	魚沼みなみ農業協同組合	高橋 宏	95	株式会社 ナカシヨク	本間 基司
16	うもれ木の会	佐藤 東	96	有限会社 なかむら農園	仲村 知也
17	(農)エコーたまつくり	成島 智美	97	(株)菜の花エッグ	梅原 正一
18	JAえちご上越	小島 康彦	98	にいがた兩湖農業協同組合	北沢 一義
19	榎本牧場(マルハニチロ産直)	榎本 祐太	99	西宇和果実出荷組合	五井 照朗
20	株式会社 エプロン	前田 政快	100	西日本有機農業生産組合	佐藤 隆
21	遠州中央農業協同組合	藤原 登臣夫	101	(有)日本の稲作を守る会	福菜 美美子
22	(有)大牧農場	榎木 聖一	102	コープノーザンびふ産直協議会	宮北 輝
23	大瀧村産直会 オーリア21	小籠 健一	103	白宇和果実出荷組合	大橋 幸夫
24	雄勝りんご生産同志会	小野田 政広	104	白州 森と水の里センター	内藤 光
25	(有)小川和男養鶏場	小川 和男	105	(株)花咲農園	宮崎 康弘
26	JAI山形おきたま	飯澤 一雄	106	バンラート農業協同組合	岸 秀夫
27	奥中山高原農協乳業株式会社	目時 正	107	東宇和農業協同組合	中野 英一
28	おても会	梅野 久吉	108	広島県果実農業協同組合連合会	及川正明
29	音更農業協同組合	宮村 徳親	109	フレレスト・ファーム	中垣 勝弘
30	(株)オルタートレード・ジャパン	藤田 恵美子	110	JAふくおか八女	黒野 大輔
31	(株)花見園	大須賀 木	111	衛宮良野青果センター	村上 洋巨
32	鹿兒島くみあい食品(株)	北郷 栄	112	フレッシュダイレクト	橋本 次郎
33	鹿兒島くみあい子キンフーズ(株)	中馬 公弘	113	(有)フレンズファーム	増永 素子
34	勝沼平有機果実組合	渡辺 孟	114	ポーランドグループ	石川 保
35	かづの農業協同組合	阿部 康明	115	農事組合法人 北社ベジファーム	新田 穰
36	神奈川中央養鶏業協同組合	彦坂 茂	116	ほとけの屋産直部会	芳川 豪
37	北浦草鶏産直部会	下河辺 昭二	117	農事組合法人 増野	寺沢 茂香
38	北浦みなみ農業協同組合	井上 淳一	118	まてこチキン生産者連絡協議会	大石 昌広
39	JA紀南有機食材生産研究会	溝口 博一	119	(有)真南風	坂本 勇一郎
40	紀ノ川農協	松本 和広	120	(株)丸公	寺崎 義弘
41	有限会社 九州青果物流通センター	岩山 重徳	121	(株)マルタ	佐伯 昌彦
42	嶺南鶏友会	芦沢 益彦	122	有限会社 マルハ園芸	寺崎 義弘
43	(有)くらぶコア	五十野 節雄	123	三浦半島EM研究会	畑 卓雄
44	草枕グループ	石田 秀利	124	山梨御坂くだもの倶楽部	鈴木 和也
45	久賀農園	久保田 忠男	125	有限会社 三田園	井尻 弘
46	くらぶ草の会	佐藤 茂	126	みちのく野菜倶楽部	佐藤 泉
47	有限会社 黒富士農場	向山 茂徳	127	みどりの農業協同組合	伊藤 成公
48	BM自然塾 有限会社 謙信の郷	井沢 輝雄	128	水保・不知火ネットワーク	佐藤 英樹
49	有限会社 高生連	松林 直行	129	南伊豆太陽苑生産者グループ	山本 剛
50	(有)ゴールド農園	石岡 繁行	130	南埼玉産直ネットワーク	山崎 浩幸
51	JAこしみず・健土塾	佐藤 正昭	131	補地域法人 無茶々園	宇都宮 俊文
52	JAこまち	井上善蔵	132	(株)野菜くらぶ	毛利 嘉宏
53	(農)埼玉県産直協同	高橋 正己	133	やさし農業協同組合	伊藤 孝史
54	JA佐久浅間	棚澤 今朝三	134	(株)八街産直会	斉藤 照夫
55	佐久ゆうきの会	真木 聡志	135	やはた会	長沢 富士雄
56	ささかみ農業協同組合	江口 聡	136	山形こづめ豚産直協議会	国分 寛士
57	農事組合法人佐原産物供給センター	伊東 幸男	137	(財)夢産地とさやま開発公社	安藤 保彦
58	(有)サンドファーム旭	金谷 雅幸	138	(有)沃土会	丸山 幸生
59	サンファーム	下川 千鶴子	139	(株)米沢郷牧場	阿部 均
60	さんまる柑橘同志会	中筋 隆清	140	(農)和郷園	伊東 忠昭
61	三里塚農法の会	柳川 秀夫	141	バルシステム東京	野々山 理恵子
62	澁谷養鶏農場	澁谷 剛	142	バルシステム神奈川ゆめコープ	吉中 由紀
63	農事組合法人 土別農園	古市 光敬	143	バルシステム千葉	佐々木 博子
64	土別市多寄有機農業研究会	山本 栄一	144	バルシステム埼玉	田原 けい子
65	(有)鳥原自然塾	酒井 澄晴	145	バルシステム茨城	小泉 智恵子
66	(株)JALみずサー비스	小川 通博	146	バルシステム山梨	白川 恵子
67	首都圏とんかつ協議会	北見 則弘	147	バルシステム群馬	田中 三千夏
68	(有)ジョイファーム小田原	長谷川 功	148	バルシステム福島	和田 佳代子
69	常総センター	柴沼 文夫	149	バルシステム静岡	上田 由紀
70	JA常総ひかり産直研究会	猪瀬 正一	150	バルシステム連合会	山本 伸司
71	庄内たがわ農業協同組合	大瀧 慶一	151	株式会社ジーピーエス	工藤 友明
72	(農)庄内協同ファーム	小野寺 喜作	152	株式会社バルミート	江川 淳
73	特定非営利活動法人 食農ネットささかみ	石塚 美洋夫	代議員数 152名		
74	すずき牧場	薄 一郎	※賛助会員 ※議決権がないため、代議員の選出はありません		
75	ゼスプリインターナショナルジャパン	藤川 栄一	153	大隈地区養まん漁業協同組合	
76	農事組合法人 村窪空	嶋田 良一	154	恩納村漁協協同組合	
77	(株)第一清瀬出荷組合	金子住晴	155	かねも	
78	有限会社 大紀コープファーム	王國堂 正悟哉	156	鏡路市漁協協同組合	
79	有限会社タカハシ養鶏場	高橋 光正	157	シーボーン昭徳	
80	(株)ちば風土の会	寺内 金一	158	全国漁業協同組合連合会	
			159	長崎県漁業協同組合連合会	
			160	野村漁業協同組合	